

こんにちは。先日の「子ども読書フォーラム」は大盛況のうちに幕を閉じました。私も図書館員の部屋で、たくさん子どもたちと本を通して楽しい一日を過ごすことができ幸せでした。フォーラムに参加していただいた来場者の皆様、フォーラム成功のために日夜頑張っていたいただいたスタッフの方々、本当にありがとうございました。さて、12月です。私は冬になるとこの本のことを思い出します。

『黒ねこのおきゃくさま』

ルース・エインズワース 作 荒 このみ 訳 山内 ふじ江 絵 福音館書店

1260円 読み物

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★★★★ 小中学年★★★ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

むかしむかし、あるさむい冬の夜、ひとりのますしいおじいさんが週にいちどの土曜日のごちそう(といってもひつじの肉とねむる前に食べるミルクにひたしたパンだけですが)をたのしみにしていると、とびらのむこうでなきごえがしました。おじいさんがとびらをほんのすこしあけると、やせて雨にぬれた黒ねこがはいってきました。おじいさんは黒ねこのあわれなように、たのしみにしていたごちそうをぜんぶあげてしまいます。そして、さむがる黒ねこのためにうちじゅうのまき(といってもほんの少しのまきですが)もだんろにくべてしまいました。つぎの日のあさ、すっかり元気になった黒ねこをおじいさんがしあわせな気持ちで送りだすと、黒ねこはふりむきおじいさんにしゃべりかけたのです。

<子どもに手渡すときのポイント>

単純なストーリーですが、何度読んでも心がほっこりします。

絵にもストーリーと同じくらいあたたかみがあり、文章の表現も単調ではなく黒ねこの様子が手にとるように生き生きと描かれています。自分で読んでも楽しめますが、もちろん寒い冬の夜、あたたかい布団の中でお母さんやお父さんが子どもに読んであげるのにもぴったりな1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。